

兵庫県伊丹市

中心市街地活性化基本計画

【3期計画：令和4年4月～令和9年3月】

【目指す中心市街地の都市像】

また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町(まち)

- ・江戸時代から伊丹郷町として酒造業が栄え、俳諧文化の中心地としても繁栄
- ・明治以降、鉄道の開通に伴う宅地化が進み、大阪大都市圏の住宅都市として発展
- ・令和4年には「市立伊丹ミュージアム」が開館予定、歴史・文化・芸術施設(5施設)が立地

【中心市街地の課題等】

1) イベント等のソフト事業による賑わい創出の効果が限定的

これまで魅力的なイベント事業に取り組んできたが、その効果が、開催日以外も含めた恒常的な賑わいに繋がっていない。また、JR伊丹駅側に比べ阪急伊丹駅側への効果に乏しい。

2) 文化施設の集積が活かしきれず、文化施設を活用した賑わい創出が不十分

これまで個々の文化施設による事業を展開してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が激減し、加えて文化施設同士の連携や文化施設と中心市街地内の商店街や店舗との連携も不十分で、賑わい創出に繋がっていない。

3) 空き店舗増加により、店舗の連続性、魅力的な商業空間の創出が不足

これまで魅力的な商業空間創出のための商店街への支援や、空き店舗解消のための各種事業を展開してきたが、エリアによっては1階の空き店舗が未だ数多く存在し、結果として魅力的な店舗の連続性を作り出すまでに至っておらず、そのことが中心市街地の商業空間としての衰退に繋がっている。

4) 中心市街地の居住人口が今後は減少の予測

これまでシティプロモーションや安全・安心な都市空間の整備に関する事業を展開することにより、民間分譲マンションが建設される等、中心市街地の居住人口の増加に寄与してきたが、今後は全市的な少子高齢化の進行と中心市街地内の建設用地減少により、現状の都市機能を維持するのみであれば将来的には中心市街地の人口が減少することが予測される。

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)	文化施設等(5施設)利用者数	875,344人 (R1:図書館+文化3館+博物館)	875,344人 (R8:図書館+文化3館+博物館)	926,600人 (R8)
	中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)	168,064人 (R1.10~12月) 参考値:102,067人 (R3.4~11月)	102,067人 (R8) 参考値:102,067人 (R3.4~11月)	167,814人 (R8)
点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)	中心市街地における1階空き店舗数	65店舗 (R2)	65店舗 (R8)	54店舗 (R8)
あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)	中心市街地における居住人口(社会増減数)	18人 (H29~R2平均)	18人 (R4~R8平均)	104人 (R4~R8平均)

【中心市街地活性化の方針】

【基本方針①】 地域資源を活用して賑わいを創出する

認定された日本遺産の「清酒発祥の地」の歴史資源や、新たに開館する歴史・文化・芸術の発信拠点である「市立伊丹ミュージアム」を活用した観光促進と回遊性向上を図り、賑わい創出を目指す。

→目標:歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)

【数値目標:①文化施設等(5施設)利用者数 ②1日あたりの流動人口】

全39事業

【基本方針②】 魅力的な商業空間を創出し、活躍する人材を増やすことで経済活力の向上を図る

商店街の魅力を高めるイベントの実施や、魅力のある店舗を誘致する仕掛けづくりを行うなど、官民が連携してエリアごとの価値を向上させる取組みを強化するとともに、新規創業に向けた環境を整えることで、魅力的な都市空間を創出する。

→目標:点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)

【数値目標:①中心市街地の1階空き店舗数】

全9事業

【基本方針③】 安全・安心に暮らせる都市空間を整備し、来街機会の増加・まちなか居住を促進する

安全・安心な都市空間の整備を進めるとともに、子育て世代のニーズを各施策に取り入れ居住環境の付加価値を高めることで、転入促進、転出抑制を図り、定住人口の増加を目指す。

→目標:あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)

【数値目標:中心市街地における居住人口(社会増減数)】

全15事業

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	参考値 ※R元年度数値	最新値 ※()は目標値の達成見込
歩いて楽しい、文化の香り高い郷町(まち)なか	文化施設(8施設)利用者数	950,104人 (H26)	1,146,000人 (R3)	863,729人 (R元)	433,908人 (R2:未達成)
まちの魅力を高め、訪れたい郷町(まち)なか	中心市街地空き店舗数	121店舗 (H27)	90店舗 (R3)	126店舗 (R元)	129店舗 (R2:未達成)
	2軸における歩行者・自転車通行量	35,719人 (H26)	41,000人 (R3)	41,192人 (R元)	37,259人 (R2:未達成)
もてなし心のある、住みたい郷町(まち)なか	中心市街地における居住人口	13,928人 (H27)	15,638人 (R3)	14,416人 (R元)	14,678人 (R2:未達成)

伊丹市中心市街地活性化基本計画の事業概要

歴史・文化・芸術を身近に感じる、 何度も訪れたい郷町（まち）

①まちなかDX推進事業

位置情報や検索キーワード等、ICTを活用した定量的なデータ収集・分析を行い、行政・中心市街地活性化協議会が、来街者の特性やニーズに合わせた取組を実施できる環境を整備する。

②市立伊丹ミュージアム連携事業

「市立伊丹ミュージアム」を中心に魅力的なソフト事業を産官学が連携して「TSU・NA・GUプロジェクト」を実施することで、まちの回遊性向上を促進し、恒常的な賑わいを創出する。



③日本遺産連携事業

日本遺産のストーリーの魅力を国内外に発信することで誘客を図り、モデルルート の策定、体験型イベントの実施等により、歴史資源を活用したまち歩き観光を推進する。

④体験型周遊イベント事業

文化施設、商店街組織、学校等と連携し、街や施設を歩いて巡る、ウィズコロナに対応した新たな「体験型周遊イベント」を実施する。長期間継続して開催することで人の密集を回避しながら、恒常的な賑わいを創出する。

点から面へのつながりが、新たな価値を 創造する郷町（まち）

⑤商店街等活性化事業

各商店街等が集客力・販売力向上等の活性化を目的として行うイベント等の事業費を補助することで、エリアごとの魅力向上を図る。



⑥エリアマネジメント促進事業

不動産事業者、商工会議所、住民、商業者組織、地権者等と協働し、空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで、各エリアの価値向上に繋げる。

⑦創業支援事業

新規創業者に対し「経営」「財務」「人材育成」「販路開拓」等の講座受講の機会を提供し、賃借料の一部を補助することで、創業者数の底上げと定着を図る。

⑧空き店舗情報バンク・マッチング事業

空き店舗情報を一元的に公開し、出店希望者に対して支援制度を含む情報発信を行い、空き店舗ツアーを行う等、創業機会を創出する。

あらゆる人に、安全・安心・快適を 提供する郷町（まち）

⑨公衆トイレ改修事業

中心市街地内の老朽化した2箇所の公衆トイレを改修し、バリアフリー設備や子どもも使いやすい機能の充実を行うことで、歩きやすく快適な都市空間を整備する。

⑩保育所誘致・開設事業

中心市街地内に2箇所の民間保育所を開設することで、子育て環境を整備する。

⑪西台3丁目民間マンション建設事業

西台3丁目に1棟(83戸数)のマンションを建設し、まちなか居住を促進する。

⑫地域子育て支援拠点事業

官民が連携して、子育て世代が子育て支援拠点のほか、商店街等、エリア内の様々な場所に集まる機会の提供を進めることで、子育て家庭の相互交流の促進や、子育て家庭と地域をつなぎ、地域ぐるみで子育てを応援する体制を整える。



中心市街地面積：約71.4ha

中心市街地人口：14,893人(令和3年1月)

エリア内全体で
実施する事業
①③④⑤⑥⑦⑧

凡例
中心市街地区域

市道中央天津線他電
線共同溝整備事業

「文化施設利用者
数」測定5施設

(アイホール、市立伊丹ミュージアム、東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、図書館)

